

【6年（書くこと）】

伝えたいことを明確にして書こう 未来の自分へ『思い出アルバム』（「思い出を言葉に」）
指導者 藪 沙代子（八代市立八代小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

学びの土台

これまで：書き表し方を工夫し、自分の考えが伝わるよう書く
これから：材料を整理したり形式や表現を選んだりして、伝えたいことを明確にして書く

学習課題

集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして書き、未来の自分へ『思い出アルバム』を残そう。

指導事項

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること
B書くこと(1)ア

思考操作

集めた材料を分類したり関係付けたりする

言語活動

未来の自分へ残す『思い出アルバム』を作る

<立ち止まって振り返る場>

どのようにして自分の伝えたいことを明確にしていったか、誰のどんな言葉で考えが変わったり深まったりしたか振り返らせるようにする。

<考えを表出し比較する場>

タブレット端末を使って、児童と交流し、どの出来事に注目して、どんな意味付けや価値付けをしたか説明し合ったり、意見を言い合ったりできるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

友達と話し合ったことを基に、自分のイメージマップを改めて見直し、テーマについて再考したり、材料を付け加えたりして、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

本時

本単元で目指す子どもの姿

集めた材料を整理したり、言葉を選んだりして、伝えたいことを明確にしなが、俳句や短歌、詩などに自分の思いを表現しようとする子ども。

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 八代市立八代小学校 藪 沙代子

- 1 単元名 伝えたいことを明確にして書こう 未来の自分へ『思い出アルバム』
「思い出を言葉に」(光村図書6年)
- 2 学習課題 集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして書き、未来の自分へ『思い出アルバム』を残そう。

[指導事項] 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。 B書くこと (1)ア

[思考操作] 集めた材料を分類したり関係づけたりする。

[言語活動] 『思い出アルバム』を作る。

3 単元について

<教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・これまでの学校生活の中で一番印象に残っている出来事を題材としている。
- ・選んだ出来事が自分にとってどんな意味や価値があるのか考え、伝えたいことを明確にすることができる。
- ・伝えたいことに合う俳句、短歌、詩といった比較的短い表現形式を自分で選択できる。

以上の特徴から、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる教材であると言える。

自分や友達の作った作品を一冊のアルバムにし、未来の自分へのメッセージとなるよう『思い出アルバム』を作るという言語活動を核に単元を構想する。

<児童観>

これまで子どもたちは日常生活で感じたことや考えたことを題材とし、俳句や短歌、詩を書く活動をしてきている。繰り返しや反復、比喩などの表現方法を使うことでより効果的に伝わることを経験してきている。

しかし、語彙力に個人差があり、自分の感じたことや考えたことを言葉で表現することを苦手としている子どもも多い。また、考えを整理し、伝えたいことを明確にして書くことを苦手としている子どももいる。

<視点について>

[視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次では、モデルとなる『思い出アルバム』をもとに、未来の自分へ今の自分の思いを届けるという言語活動のイメージを持たせるようにする。これまで、子どもは日常生活での出来事を題材とし、感じたことや考えたことを俳句や短歌、詩に表現する学習をしてきている。短い言葉で表現するには、自分の伝えたいことを明確にする必要性や、比喩や反復などの表現を工夫してきたことを想起させ、単元の学習課題を設定していく。

第二次では、「どのようにして課題を解決していったか。」「どんな言葉に着目して、考えを明確にしたり表現を工夫したりしたか。」「役に立った友達の考え」等、自らの学習を振り返る場を設定する。その振り返りを共有する場を授業の導入や終末で設け、それぞれの考え方のよさを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

[視点2] 共に学び続けるための工夫

印象に残った出来事を詳しく思い出させる際には、タブレット端末のイメージマップを使って書く材料を集め、自分にとっての意味や価値について明確にしていく。自分の考えを可視化することで、友達との考えの違いに気付き、なぜそれを選んだのか、何を根拠にしているのかなど話し合う場を設定する。自分のテーマを短い言葉で表現したり、比喩や反復などの表現方法を使いながら言葉を選んだりする場面では、自分の思いが伝わるよう友達との対話を通して納得解を模索していく。なぜその言葉を選んだのか、その言葉でいいのかなど、「言葉への見方・考え方」を働かせ、言葉にこだわり吟味することで、自分の作品へと生かしていけるようにする。

4 単元の見目

- 比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。 (知・技) (1) ク
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選り、伝えたいことを明確にすることができる。 B書 (1) ア
- 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 (学・人)

5 指導と評価の計画 (7時間取り扱)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校生活をふり返り、印象に残った出来事を出し合う。 ○ モデルの『思い出アルバム』をもとに単元の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予想される出来事の写真を用意しておき、なぜ印象に残っているか出来事に対する自分なりの思いがあることに気づかせる。 ・ これまで学習してきたことを生かしながら俳句や短歌、詩などの形式で表現し、未来の自分へ今の自分の思いを届けるという言語活動のイメージをもてるようにする。 	
<p>〈学習課題〉集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして書き、未来の自分へ『思い出アルバム』を残そう。</p>				
二	2	○ 印象に残っている出来事を詳しく思い出し、書く材料を集める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や周りの人がしたこと、交わした言葉やその時の思いなど、タブレット端末のイメージマップに書き出すようにする。 	<p>思印象に残っている出来事とそれに対する意味や価値を書き出し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>[イメージマップ]</p>
	3 本時	○ 選んだ出来事に対する自分にとっての意味や価値を考え、最も伝えたいことを明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ出来事に対する自分にとっての意味や価値を短い言葉で表現したり、友達との対話を通して意味や価値を再考したり、材料を整理したりして、伝えたいことを明確にできるようにする。 	
	4	○ 伝える内容に合った表現形式を選び、簡単な文章にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 俳句や短歌・詩などの形式や特徴を確認する。 ・ 自分のテーマが伝わるよう、丁寧に文章化するよう伝える。 	<p>思伝えたいことを表現するのに適した形式を選んでいる。</p> <p>[シート、振り返り]</p>
	5	○ 表現を工夫して、選んだ形式にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩や反復、語順など、伝えたいことが効果的に伝わるよう表現を工夫させる。 	<p>知比喩や反復、語順などどのような表現の工夫をすると効果的か理解している。[振り返り]</p>
	6	○ 友達と読み合っ、推敲して清書する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んでどんな思いが伝わってきたかを交流し、修正する場所を見つけさせる。 	<p>主伝えたいことを明確にすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって書こうとしている。</p> <p>[シート・振り返り]</p>
三	7	○ 仕上げた作品をクラス全体で読み合っ、感想を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの表現のよさを中心にして感想交流することで、自分の作品のよさに気づかせる。 ・ 伝えたいことを明確にするためにどのような学習をしてきたのかを振り返らせ、今後にかかしていくようにする。 	<p>思書いた作品を読み合、感想や意見を伝え合っ自分の作品のよいところを見つけている。</p> <p>[シート・振り返り]</p>

6 本時の学習（3／7）

（1）目標

選んだ出来事に対する意味や価値を短い言葉で書き出して整理することを通して、何を中心にして書くか伝えたいことを明確にすることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
10	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○教師の作成したモデルの詩を提示し、この詩のテーマ（自分にとっての意味や価値を短い言葉で表現したもの）は何かを考えさせることで、本時は自分のテーマを明確にしていくという見通しを持たせるようにする。	モデルの詩
自分が最も伝えたいことは何だろう。			
10	2 選んだ出来事が、自分にとってどんな意味や価値があるのかを考え、材料を整理する。	○前時に作成したイメージマップに書き出した材料（自分や周りの人がしたこと、かけられた言葉、その時考えたこと）から、今の自分にとって一番大きな意味や価値をもっているものに注目させ、自分のテーマを考えるようにする。テーマが決まらない児童やどんな言葉で表現すればよいか分からない児童には、テーマ例から選択してもよいことを伝える。 ○テーマが決まったら、イメージマップに書き出した材料から、詩や俳句、短歌に入れたい中心になる材料を選ぶようにする。その際、選んだ材料が分かるよう、枠に色をつけておくようにする。新たに付け加えたいことがある場合は、イメージマップに付け足すよう助言する。	タブレット端末
10	3 友達と交流し、自分が考えたテーマや選んだ材料について伝え合う。	<p style="text-align: center;">〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</p> <p>○タブレット端末に公開された全員のイメージマップを見て、同じ出来事や同じテーマを選んでいる児童と交流できるようにする。どの出来事に注目して、どんな意味付けや価値付けをしたか説明し合ったり、意見を言い合ったりできるようにする。</p>	
10	4 自分が最も伝えたいことを見直す。	<p style="text-align: center;">〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由づけの充実</p> <p>○友達と話し合ったことを基に、自分のイメージマップを改めて見直し、テーマについて再考したり、材料を付け加えたりして、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。</p>	
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	◆選んだ出来事に対する意味や価値を選び、短い言葉で表現し、最も伝えたいことを明確にしている。 [イメージマップ]	ふり返しシート
<p style="text-align: center;">〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</p> <p>○振り返りの観点を提示し、どのようにして自分の伝えたいことを明確にしていたか、誰のどんな言葉で考えが変わったり深まったりしたか振り返らせるようにする。</p>			